

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

委員会名: 教学検討委員会

委員長: 夏秋 啓子

提出日 平成29年3月 23日

【活動方針】 学長方針「NEXT125」の「Vision1『教育で評価される農大』」を目指して、また、文科省中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換にむけて」(平成24年8月)にある「学士課程教育の質的転換」の実現を目指して、学内にFD活動を普及させるための取組みを展開する。また、平成29年度に世田谷キャンパス各学部の教育課程が大きく変更となることを受けて、それを動かす教学運営全般の検証・改善を行い、改組元年となる平成29年度教育活動が円滑に実施されるための準備及び支援活動を展開する。

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項
						平成29年度への継続有無
テーマ: H29年度改組に対応する教学運営全般の検証と改善						
<b>【背景・目標】</b> 平成28年度は、学部改組の前年度である。新体制下の教学運営全般を円滑に実施するため、学部改組に伴い変更・改善される様々な制度、取扱い、対応について、学内合意を図りつつ、1年をかけて周到に準備する必要がある。	各学科の29年度カリキュラムに対して、編成方針に基づく取組みに関して確認作業を行うと同時に、新しい取組み(新キャップ制、他学科聴講制度の見直し他)に関して取りまとめを行った。また兼任の科目担当者の決定に関して学部間調整を多数行うなど、前半は29年度カリキュラム実施に向けた活動を展開した。後半は、目標に掲げている委員会と各学科との連携強化に向けた活動を展開予定。	3	各学科の29年度カリキュラムに対して、編成方針に基づく取組みに関して確認作業を行うと同時に、新しい取組み(新キャップ制、他学科聴講制度の見直し他)に関して取りまとめを行った。また兼任の科目担当者の決定に関して学部間調整を多数行うなど、前半は29年度カリキュラム実施に向けた活動を展開した。後半は、学部共通の導入科目の改善など30年度に向けた課題の抽出、及び新旧カリキュラムが同時進行する30年度以降の科目担当者の選定手順等、各学科との連携が必要な課題の抽出を行った。	・教育課程を一部改正したH29年度改正学則の文科省届出 ・H29年度授業時間割の作成 ・H29年度版学生生活ハンドブック(履修編)の作成 ・H29年度履修の手引きの作成	4	継続 有 ・30年度以降の学部共通科目(導入科目・リメディアル科目等)の改善 ・30年度以降の科目担当者の選定に係る学内ルール等
テーマ: 学内FDの普及・浸透・定着(PDCAサイクル構築)						
<b>【背景・目標】</b> 教検討委員会の傘下に「FD向上委員会(WG活動)」が設置されて3年目になる。このWGのこれまでの活動は、主として問題点の抽出や情報収集を中心とした「P」の活動であったが、様々な制度等の改善・改革が必要になる平成29年度に向けては、これを「D」の活動に転換していかなくてはならない。	FD向上委員会(各WG)の活動報告会を、学長及び教学検討委員に対して実施すると同時に、具体的成果を29年度の教学運営に反映させる活動(ナンバリング、シラバス及び授業評価アンケートの改善、eラーニングの導入他)を展開した。後半は継続課題(GPA、アクティブラーニング他)の具体化(Dへの展開)に関して検討予定。	3	FD向上委員会(各WG)の活動報告会を、学長及び教学検討委員に対して実施すると同時に、具体的成果を29年度の教学運営に反映させる活動(ナンバリング、シラバス及び授業評価アンケートの改善、eラーニングの導入他)を展開した。後半は、継続課題(GPA、アクティブラーニング他)の具体化(Dへの展開)について、各WGの活動を継続した。結果については、29年度5月に活動報告会の開催を予定し、実行可能な課題から、30年度にむけての実行計画案を策定する予定である。	・WG活動報告会の開催(H28年4月実施済み H29年5月実施予定) ・H29年度の予算獲得	4	継続 有 ・WG活動結果の30年度からの実施計画案の検討 ・2期目(29年度～)のWG活動の実施と課題整理
テーマ: FD活動の改善						
<b>【背景・目標】</b> 学長の7つのビジョンのいくつかを実現するため、「地域発展」、「産業界・他大学との連携」、「グローバル化」に向けた活動を展開し、それらを通して学内のFD活動の推進を図っていく。その結果として、私立大学等改革総合支援事業(補助金)の獲得を目指す。	FDに関する本学の対応の遅れにより、私立大学等改革総合改革事業には採択されなかった。後期からは、「3つの方針」を中心に据えた内部質保証のPDCAサイクルの具体化と定着に向けた課題の整理・検討を予定。	2	今年度後半には、「3つの方針」を中心に据えた内部質保証のPDCAサイクルの具体化案を全学審議会に提案し、承認された。28年度私立大学等改革総合支援事業には採択されなかったが、29年度申請に向けての課題整理と実行案の検討を行い、資料をまとめた。	・28年度私立大学等改革総合支援事業への申請(FD活動実施を前提として) ・28年度私立大学等改革総合支援事業の採択	4	継続 有 ・「3つの方針」を中心に据えた内部質保証のPDCAサイクルの実行 ・29年度私立大学等改革総合支援事業への申請及び採択

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

【活動方針】学長方針【Vision5】世界に貢献する農大を総合的に具現化するため、平成27年度から「東京農業大学グローバル戦略」を制定し、1. 世界の大学とのパートナーの強化、2. 大学のグローバル化に向けた学園環境の整備、3. 農大流のグローバル人材育成の目標設定、4. 海外拠点の設置、5. 海外危機管理の整備・強化に取り組むため、目標と数値目標を設定した。本委員会では毎年、これらの目標から優先順位を付けて取り組む。

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ:「農大流のグローバル人材育成の目標設定」 英語による専門教育プログラム(英専)の充実						
<b>【背景・目標】</b> 全学共通科目として英語を通じて専門を学ぶ26科目を開講。本学教員延べ100名以上が関わる特色あるプログラムには、外国人留学生やvisiting studentなどが履修しているが、日本人学生の履修が少ない。平成29年度新カリキュラム移行に合わせて、本プログラムを本学学生の履修者の増加を図るための施策を検討する。	4月及び7月に委員会を開催し審議した。過去4年間に実施された開講科目の評価責任者にアンケートを取り、本プログラムを改善するための方策を検討した。授業の質を一定レベルに維持するために、各科目の条件(日本人学生、留学生、visiting student、協力隊希望者等の履修対象の特定、対象学年、語学レベル等)を取りまとめた受講ガイドラインを作成することとした。平成29年度からの新カリキュラムを決定した。本学の改組がキャンパスごとに異なるため、これらが完成したのちに、本プログラムの再編成を行うこととした。	5	中間報告後、受講ガイドラインを2017学生ハンドブックに掲載することができた。これにより、各科目の特質を明らかにし、学生が履修しやすくなりことにより、適切な人数、内容ができるようになることを見込む。	1. 過去4年間に実施された開講科目の評価責任者にアンケートを取り、本プログラムを改善するための方策を検討し、平成29年度からの新カリキュラムに反映させる。 2. 学内における本プログラムの意義をフレッシュマンセミナー等を通じて周知する。 3. 本プログラムへの本学学生の履修者増加を図るための施策を検討する。それぞれの達成度を判断する指標は、次のとおり。 ①アンケートの実施と内容の検討と、それらを反映させたH29年度新カリキュラムの作成	5	本学の学部改組が平成29-30年度にまたがって進行するため、28年度の活動は、現行プログラムの改善にとどまった。今後は、新学部体制のもとに本プログラムを再編成する必要があるため、平成29年度も継続して活動を行う。
テーマ:「大学のグローバル化に向けた学園環境の整備」 留学生の増加						
<b>【背景・目標】</b> 本学の外国人留学生数は約25か国230名程度(全学生の約2%程度)である。しかし、国の多さ(多様性)の面では、特色があり、中国からの留学生が40%程度、また、台湾と韓国を足しても東アジアからの留学生は50%未満であり、ASEAN諸国から23%、中南米8%、最近増えている地域は、中東(アフガニスタン)6%、アフリカ5%(タンザニア、ケニア、エチオピア等)。グローバル人材のネットワークを強化するために外国人留学生の出身国数を増加させる。	10月1日現在の出身国数は34か国208名であり、総数は減少しているが国数は増加している(前年比総数21人減・国数5増加)。これは主にJICA人材育成事業による大学院研修生受入れに因る増加である。今後の留学生、特に学部留学生の増加に向けては、各キャンパスにおける英語による授業、および日本語教育の充実が重要な課題である。国際農業開発学専攻と農業工学専攻(ともに大学院)では、次年度においてJICA事業によるシリア難民となっている研究者の受入れを表明していることから、本学外国人留学生受入れは世界的社会貢献に資する指標でもある。	3	前年比総数で、達成指標1の留学生数の増加については、21人減少し、達成指標2の国数は5か国増加した。当委員会において留学生の日本語教育の在り方について、その重要性、現状把握及び課題整理を行い、「学部外国人留学生の日本語教育について」としてまとめ、教学検討委員会へ検討依頼をした。結果、世田谷キャンパスにおいては日本語教育カリキュラムの課題を解決するプログラムが設定された。	東京農業大学「大学推薦国費外国人留学生」受入れ要領および「大学推薦国費外国人留学生」受入れ要領に基づき、文部科学省国費外国人留学生の受入れ数を増加させる。JICA人材育成事業による大学院生受入れを積極的に行い、受入れ数を増加させる。達成度を判断する指標は次のとおり。 1. 留学生数の増加 2. 留学生出身国数の増加	4	JICA人材育成事業による大学院研修生の積極的な受入れに伴い、大学院留学生が増加する一方で、学部留学生数の低下がトレンドとなりつつある。入学前に日本語能力を有することを前提とした学部留学生受け入れ体制のままでは、このトレンドは続くと考えられる。留学生の日本語習得を積極的にサポートする教育体制の充実が各キャンパスにおいて必要である。留学生受け入れ数はグローバル化の主要な指標であるため、平成29年度以降も継続的に取り組む。
テーマ:「農大流のグローバル人材育成の目標設定」 海外協定校との交換プログラム実施						
<b>【背景・目標】</b> 長期海外学修活動を促進するため、協定校と合同でカリキュラムを実施するサンドイッチプログラム等の導入を検討する。まずは、ミシガン州立大学(MSU)から単位互換のサンドイッチプログラムの提案があり実施に向けて検討する。	4月委員会において、国際農業開発学科が先行して取り組むとの方向性が示された。昨年度の調査で、サンドイッチプログラムへの参画を希望する学科は国際農業開発学科のみであったことから、本年度はMSUに留学中の本学教員を通じて、MSUとの交渉を進め、実施に向けた課題を抽出している。	3	サンドイッチプログラム導入の意義の一つとして、プログラムに参加する本学学生がMSUで学ぶための経済的負担を減じることができることにあったが、交渉のプロセスにおいて、MSUが本学学生全員に対して、現在よりも学費を低く設定するためのプログラムを適用することが可能になったため、サンドウィッチプログラムを展開するメリットが低下したため、交換プログラム内容について再協議を行うこととした。	昨年度の調査で、サンドイッチプログラムへの参画を希望する学科は国際農業開発学科のみであったことから、本年度は中曽根国際化推進委員を中心に、MSUとの交渉を進め、実施に向けた課題を抽出する。達成度を判断する指標は次のとおり。 1. 本プログラムの実施時期について具体的に確定する。	2	活動目標の再設定。MSUとの現実的な学生交換留学プログラムの実施の為、高度な仕組みを伴うサンドイッチプログラムではなく、両校学生が参加できる国際教育プログラム(CIEP)の共同運営等を模索する。

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

委員会名: キャリア戦略委員会

委員長: 渡部 俊弘

提出日 平成29年 3月30日

<活動方針>  
平成28年度キャリア戦略委員会は、未来の問題を解決できる有為な人材を社会に輩出する為「東京農業大学・東京農業大学短期大学部の中期計画(平成27年12月10日)」のうち次の3テーマに重点をおき取り組むこととする。3 大学院教育: 大学院生の就職活動に対する支援強化、5 海外戦略: グローバル社会への輩出支援、7 学生支援(キャリア支援: 様々な学生支援プログラムの推進等): 変動する就職スケジュールに対応した支援プログラムの実施

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ: 大学院生の就職活動に対する支援強化						
<p><b>【背景・目標】</b></p> <p>中期計画において掲げられた「大学院教育(教育の高度化)」により大学院教育の充実が図られ進学環境が整備されることにより、修了者の求人確保が重要となる。 大学院生を対象とする求人の確保に努めつつ、大学院生に特化した就職支援メニューを実施することで就職活動を行う大学院生自身の質と意欲向上を図ることを目的とする。</p>	<p>①大学院生を対象とした求人確保 大学院生求人数の前年度比較を行う。 ■大学院生求人数 平成27年度: 7,966件(全体: 12,230件) 平成28年度: 7,620件(全体: 11,339件) ※9/12現在 上半期において昨年度の96%に達している為、昨年度を上回る見込み ■研究者等公募情報の発信【新規取組事項】 大学院課と調整し、研究者等の公募情報を「農大キャリアナビ・お知らせ」へ掲載 ②大学院生に特化した就職支援メニューの実施 プログラム参加人数が年度当初と同程度以上であること。また、前年同時期の内定率の比較を行う。 ■各キャンパスにおいて大学院生対象就職支援プログラム実施 世田谷: 年度内5回実施予定のうち3回終了。参加人数やや減少しているもののアンケートによる満足度は高い オホーツク: (1)院生に「人間と職業」(学部3年必修科目)の聴講を推奨(2)11/30に大学院生対象就職支援プログラム実施予定 ■内定率比較※10/18現在 カッコ内は昨年の数値 博士前期課程: 世田谷77.6%(65.4%)、厚木68.4%(56.5%)、オホーツク66.7%(70.0%) 博士後期課程: 世田谷44.4%(26.7%)、厚木100.0%(25.0%)、オホーツク66.7%(33.3%) ■大学院生を対象とした学内会社説明会の開催 4/12北興化学工業(株): 4名参加(バイオ3名、化学1名)</p>	4	<p>①大学院生を対象とした求人確保 大学院生求人数の前年度比較を行う。 ■大学院生求人数 平成27年度: 7,966件(全体: 12,230件) 平成28年度: 8,583件(全体: 13,064件) ※3/28現在 大学院生を対象とした求人は、前年より617件増加した。 ■研究者等公募情報の発信【新規取組事項】 大学院課と調整し、研究者等の公募情報を「農大キャリアナビ・お知らせ」へ113件掲載。 ②大学院生に特化した就職支援メニューの実施 プログラム参加人数が年度当初と同程度以上であること。また、前年同時期の内定率の比較を行う。 ■各キャンパスにおいて大学院生対象就職支援プログラム実施したが、参加者数増は、果たすことができなかった。 ■就職率比較※5/1現在 カッコ内は昨年の数値 博士前期課程: 世田谷95.6%(94.4%)、厚木94.7%(91.7%)、オホーツク94.7%(90.9%) 博士後期課程: 世田谷85.7%(90.0%)、厚木100.0%(66.7%)、オホーツク100.0%(100.0%) ■大学院生を対象とした学内会社説明会の開催 4/12開催: 4名参加(バイオ3名、化学1名)</p>	<p>①大学院生を対象とした求人確保について ■求人数は大学全体でも増加した。大学院生を対象とした件数の方が全体よりも若干伸び率が高いことから求人確保については達成できたと考えられる。 また、新規取組み事項として、研究者等の公募情報の発信も併せて行うことができた。 ②大学院生に特化した就職支援メニューの実施について ■各キャンパスで大学院生を対象とした就職支援プログラムを実施するも参加人数増には至らなかった。内定率もほぼ、前年並みである。大学院生に限定した学内会社説明会を4/12に行い4名が参加したが、進路決定には至らなかった。しかし、別途応募を進めていた博士前期課程農学専攻の男子学生が当該企業への進路決定の報告をしている。</p>	4	<p>①②について平成29年度も継続して取組を行う。 ②大学院生に特化した就職支援メニューは改善を行う。 平成29年度は、限られた院生生活をより実り多いものとするために、夏季休暇の期間を利用して、複数の研究所・研究者を訪問し、将来に向けた目標をより具体的にイメージすることを目的とした「大学院生のためのチャレンジワークショップ」を実施することで大学院就職支援の強化を図る。【新規取組事項】</p>

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ：グローバル社会への輩出支援						
<p>【背景・目標】</p> <p>教育と研究がグローバル化する中、中期計画では「海外戦略（グローバル化）」が謳われており「人物を世界の畑に還す」為の人材育成等が求められている。</p> <p>キャリア戦略委員会では、「国際インターンシップ（米国カリフォルニア州日系企業於24泊26日）」を主軸とし、参加学生が、国際的な就業観等を養い、具体的にグローバルな進路を目指す者を輩出することを目的としている。</p>	<p>①TOEIC講座受講前後のスコアアップ比率と参加学生から国際インターンシップ応募学生を多数動員。</p> <p>■TOEIC講座 世田谷：55名選抜試験受験 49名受講。うち国際インターンシップ説明会参加13名、応募8名。スコアアップ40名（昨年18名）。 オホーツク：TOEIC学内IPテスト（6/25実施）を29名が受験（前回21名）</p> <p>②国際インターンシップ応募者数が説明会参加者数の半数以上であること。</p> <p>■説明会：10/6, 7 52名（昨年36名） ■応募受付：10/17 30名（昨年28名）</p> <p>③国際インターンシップ事前、事後プログラムの実施により積み上げた参加学生の進路意向と決定状況の検証。</p> <p>■参加学生に対するヒアリングを実施【<b>新規取組事項</b>】：14名中9名が国際的な進路を希望していると回答。また、日・ASEAN 食産業人材育成官民共同プロジェクト（Japanese Factory Visit Tourインターンシップ）に11名（就職活動中3名除く）が参加しASEAN諸国の学生と交流を行った。</p>	4	<p>①TOEIC講座受講前後のスコアアップ比率と参加学生から国際インターンシップ応募学生を多数動員。</p> <p>■TOEIC講座 世田谷：55名選抜試験受験 49名受講。うち国際インターンシップ説明会参加13名、応募8名。スコアアップ40名（昨年18名）。 オホーツク：TOEIC学内IPテスト（6/25実施）を29名が受験（前回21名）</p> <p>②国際インターンシップ応募者数が説明会参加者数の半数以上であること。</p> <p>■説明会：10/6, 7 52名（昨年36名） ■応募受付：10/17 30名（昨年28名）</p> <p>③国際インターンシップ事前、事後プログラムの実施により積み上げた参加学生の進路意向と決定状況の検証。</p> <p>■参加学生に対するヒアリングを実施【<b>新規取組事項</b>】：14名中9名が国際的な進路を希望していると回答。また、日・ASEAN 食産業人材育成官民共同プロジェクト（Japanese Factory Visit Tourインターンシップ）に11名（就職活動中3名除く）が参加しASEAN諸国の学生と交流を行った。</p> <p>■世田谷キャンパス就職対策委員会（3/23）、キャリア戦略委員会（3/30）において参加学生の帰国報告会を実施。</p>	<p>①TOEIC講座受講前後のスコアアップ比率と参加学生から国際インターンシップ応募学生を多数動員する取組みについて。</p> <p>■TOEIC講座は、予習復習の重要性、継続（授業の欠席者へはその都度連絡）を丹念に学生に伝えることで、昨年より大幅にスコアアップ比率が伸びた。49名中40名がスコアアップ。（昨年18名）</p> <p>■TOEIC講座受講者13名が国際インターンシップの説明会に参加。（うち8名が応募）一定数の動員ができた。</p> <p>②国際インターンシップ応募者数が説明会参加者数の半数以上であることについて。</p> <p>■説明会参加は、56名。応募者は、30名であることから目標値の半数以上の応募を達成することができた。</p> <p>③国際インターンシップ事前、事後プログラムの実施により積み上げた参加学生の進路意向と決定状況の検証について。</p> <p>【<b>新規取組事項</b>】 ■国際インターンシップ事業開始から4年経過を機に参加学生に対するヒアリングを実施。14名中9名が国際的な進路を希望していると回答。</p>	4	<p>①～③について平成29年度も継続して取組を行う。</p> <p>TOEIC講座、国際インターンシップいずれの説明会にも前年国際インターンシップ参加学生による「国際的視野」「語学力」の重要性を伝える為のプレゼンを行い意欲向上に努めている。</p> <p>参加学生には継続的なヒアリングや支援を行い、グローバルな進路決定へとつなげていく。</p>
テーマ：変動する就職スケジュールに対応した支援プログラムの実施						
<p>【背景・目標】</p> <p>二年連続となる変更後の就職活動スケジュールは、企業が3月に採用情報を公開し6月選考（選考は、昨年より2か月前倒し）で進める超短期スケジュールと言われている。このようなスケジュールの中でインターンシップが今後の選考で重要視されることが見込まれる。</p> <p>選考時期、方法が流動的な中で、特にインターンシップに重点をおき、準備不足にならない様な就職支援を行っている。</p>	<p>①前年同時期の内定率の比較を行う。</p> <p>■内定率比較※10/18現在 カッコ内は昨年の数値 学部：78.4%（71.6%） 短大：38.6%（50.5%）</p> <p>②就職支援プログラムの前年同時期の参加者数の比較及び連携協定企業（団体）とのインターンシップ実施。</p> <p>■就職支援プログラム前年参加者数比較 カッコ内は昨年の数値 世田谷前期：3,515人（2,046人）次年度も今年度と同様の就活スケジュールが発表された為、より短期決戦が見込まれる。後期の就職支援プログラムは、業界研究、インターンシップにより注力し支援を行っていく。</p> <p>■連携協定企業（団体）とのインターンシップ【<b>新規取組事項</b>】 オホーツク：地域連携インターンシップ実施（9/5～13） （主催：網走市・大空町・JAオホーツク網走・JA女満別・農大） 世田谷7名、厚木9名の学生が網走市、大空町で一次産業インターンシップを体験（3キャンパス学生の交流機会）実施後のアンケートでは就農をしたいという学生も何名か確認できた。※各キャンパスで就農支援プログラムも実施。</p>	4	<p>①前年同時期の内定率の比較を行う。</p> <p>■就職率比較※5/1現在 カッコ内は昨年の数値 学部：95.2%（94.3%） 短大：90.3%（90.5%）</p> <p>②就職支援プログラムの前年同時期の参加者数の比較及び連携協定企業（団体）とのインターンシップ実施。</p> <p>■就職支援プログラム前年参加者数比較 カッコ内は昨年の数値※2/17現在 世田谷：9,439人（6,940人）</p> <p>■連携協定企業（団体）とのインターンシップ【<b>新規取組事項</b>】 オホーツク：地域連携インターンシップ実施（9/5～13） （主催：網走市・大空町・JAオホーツク網走・JA女満別・農大） 世田谷7名、厚木9名の学生が網走市、大空町で一次産業インターンシップを体験（3キャンパス学生の交流機会）実施後のアンケートでは就農をしたいという学生も何名か確認できた。※各キャンパスで就農支援プログラムも実施。</p>	<p>①前年同時期の内定率の比較について。</p> <p>■1月現在の内定率前年比較は、学部生に関してはほぼ同率であるが、短大生は14.1ポイント下回っている。</p> <p>②就職支援プログラムの前年同時期の参加者数の比較及び連携協定企業（団体）とのインターンシップ実施について。</p> <p>■就職支援プログラムの参加者数は、大幅に増加した。（世田谷：前年より2,499人増加）</p> <p>■連携協定企業（団体）とのインターンシップ【<b>新規取組事項</b>】は、参加学生のアンケートから就農に対する意識の変化が見られ、一定の効果が得られるものになった。</p>	4	<p>①②について平成29年度も継続して取組を行う。</p> <p>①は、短期化が加速する就職活動スケジュールを支援プログラムに反映し、進路決定へとつなげていく。短大生未内定学生へは個別対応の強化などを図り、内定率向上に努めていく。</p> <p>②は、地域連携協定の他、包括連携協定企業も視野に入れ、学生の就職支援を構築していく。</p>

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」（最終報告）

委員会名： 入試戦略委員会 委員長：新部 昭夫

提出日 平成29年3月22日

<活動方針> 学長方針「教育で評価される大学」「入試戦略（ブランド力）」及び中期計画に基づき、「志願者確保」「入学者の質の向上」「新学部・学科改組広報」のために積極的に取り組む。また、平成29年度入試においては、全学部統一型、学部別志望型の入試制度が新たに始まるため実施については万全を期する。						
平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ：全学部統一型 学部志望型(一般入試) 入試の遺漏なき実施						
<b>【背景・目標】</b> 平成29年度から、従来の全学部統一型入試の他、新たに学部別志望型入試が実施されるため、Web出願受付、入試の実施、合否判定までトラブル無く業務が遂行できるものとする。	入試業務についてはWeb出願ではない榎本武揚フロンティア入試および編入学入試を円滑に実施した。Web出願については入試制度の変更に伴いシステムの更新が順調に行われ、受付準備を整備している。	3	平成29年度の入試においては、従来の入試制度の他、学部志望型入試および榎本武揚フロンティア入試（後期）を新設したが、Web出願から始まり合否判定までトラブルなく実行された。	・システム不具合の件数等	4	来年度も引き続きWeb出願の精度の維持に努めていきたい。
テーマ：新学部・学科の積極的な広報						
<b>【背景・目標】</b> 平成29年度からスタートする新学部・新学科のPRを高校生・保護者・社会へ積極的に発信し、志願者獲得に向けて最大限努力する。	新学部・新学科のリーフレットを制作し、資料請求者にDMを送ったほか進学相談会等で配布した。また、既存学科を含め電車内用動画、ポスターを制作し、山手線新車両ジャックおよび東急線に出稿した。	4	新学部・新学科のPRについては、予定通り実施でき、受験生・保護者・社会一般へ農学の広がりをPRする事が出来た。	・志願者数等 ・各種広報媒体	4	来年度は、農学部新学科、生物産業学部学科名称変更等について積極的にPRを行いたい。
テーマ：入学者の質の向上にむけた新たな入試戦略の検討						
<b>【背景・目標】</b> 入学者の質の向上にむけた入試戦略を多方面から検討する。	全学的に推薦・優先系入学者の入学割合の検討を行い、非入学者に対するアンケートを実施した。また、現行の入試制度の一部の検討の必要性が挙げられた。	3	今年度は、推薦入試枠の見直しを行った。また、今年度導入された学部志望型入試について検証を行い、来年度各入試制度における入学定員の見直しを実施したい。	・志願者数等	3	来年度も引き続き多方面から入試制度を検討したい。

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

委員会名: 地域連携戦略委員会 委員長: 渡部 俊弘

提出日 平成 29年 3月 21日

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)		中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
<p>&lt;活動方針&gt;                      地域連携事業の推進・支援を戦略的に統括する組織(委員会)の確立を目指す。                      学長方針の「地域に貢献する農大」(vision3)                      ①学部・学科単位での地域連携の推進                      ②6次産業推進のための研究支援の強化                      ③社会科学系のコーディネートによる地域連携の推進                      ④農大が取り組むべき地域貢献プロジェクトの推進                      ⑤大学発ベンチャー企業による地域貢献の推進                      この5項目の基本方針に基づき、地域貢献を念頭においた各種地域連携関連事業の推進と支援を戦略的、統括的にリードする組織の確立を目指す。</p>							
<p>テーマ: 地域連携事業に関する情報収集と整理【既存事業の統括的整理: 戦略立案へ向けて】</p>							
<p>【背景・目標】                      ①既存の地域連携協定に基づく、連携事業の活動状況を把握するための情報収集等を継続的に実施する。                      ②新規連携事業先(地方自治体等)との連携を視野に戦略的な方策・支援を検討する。</p>	<p>①各地域連携活動における活動内容等実態把握が不十分である連携事業については継続的に担当教員等関係者と連絡を取り、情報収集を行っている。                      ②新規連携先との連携活動を行うための条件や戦略的な方策・支援等ワーキンググループで検討等、取り組んでいる。</p>	4	<p>①大学締結に伴う自治体等(JA等含む)に関する活動内容等の実態把握をするため、教員等関係者に情報収集の依頼を行い、概ね協力を得ることが出来た。                      ②新規連携先との活動に際し、今までの本学との活動経緯や今後の交流の可能性等を双方で事前協議を行い、継続的に連携活動を遂行するための「概要書」の作成に取り組んだ。また、連携活動を行うための基本条件を定めた。</p>	<p>・平成28年度地域連携協定先一覧の作成。                      ・地域連携協定締結に伴う「概要書」等基本条件の設定。</p>	5	<p>・活動内容等の実態把握は教員等関係者から協力を得ることが出来たが、一部不十分な回答や未回答が生じているため検討し、継続的に取り組んで行く。                      ・連携活動に伴う課題の整理と課題等への方策・支援に関しては継続的に委員会で検討し、取り組んで行く。</p>	
<p>テーマ: 地域連携の推進と地域連携事業への支援【現行事業及び新規事業への支援推進】</p>							
<p>【背景・目標】                      ①東京農業大学の特色を活かした地域連携事業を推進・支援を行うための基本方針や組織として支援体制の確立を目指す。                      ②現在進行している地域連携協定事業の支障事項、課題などの収集整理から戦略的な方策・支援に向けた対応策を統括的に実施する。</p>	<p>①各地域連携事業の推進・支援を行うための運用マニュアルを作成し、支援体制の確立に向けて取り組んでいる。                      ②既存の地域連携締結先の活動内容を対象に課題及び改善点等を抽出し、方策・支援に向けた対策等に取り組んでいる。</p>	4	<p>①地域連携先との連携活動に伴う本学における連携協定締結までの受入れ体制及び学内外への情報発信の確立、各種様式の設定(連携協定締結申込書、活動計画書、活動報告書)を作成した。                      ②既存の地域連携先との活動内容における課題等情報収集は把握出来たが、改善等への方策・支援等についてはワーキンググループや委員会で継続的に検討している。</p>	<p>・地域連携運用マニュアルの作成。                      ・新規地域連携協定件数のデータ蓄積・整理。</p>	4	<p>・各地域連携事業の推進・支援等に伴う支援体制の一環として、運用マニュアルを作成したが、3キャンパスの関係者と調整が必要なため、実施に向けて検討し、継続的に取り組んで行く。</p>	
<p>テーマ: 地域連携活動の社会発信【戦略的社会発信に向けて】</p>							
<p>【背景・目標】                      ①本学が取り組んでいる地域連携活動成果の情報整理とホームページや情報誌等への発信。                      ②社会発信を通じて学内のみならず、学外関係者の地域連携事業の理解促進も図る。</p>	<p>①地域連携に関するホームページ及びリーフレットの企画・立案等の検討を行い、作成及び発信に向けて取り組んでいる。                      ②学内外への情報発信として、各地域連携活動に関する資料やパンフレット等の情報収集と整理を行い、紹介コーナーの設置に向けて取り組んでいる。</p>	4	<p>①地域連携に関するホームページの構築を行い、連携先の活動内容等の掲載を行った。                      ②各地域連携先の連携活動に関する資料やパンフレット等の情報収集及び整理を行い、連携先の活動内容を掲示板に掲載及びリーフレットを作成し、都道府県の地域創生関連部署や既存の連携先に送付し、広報活動に努めた。</p>	<p>・地域連携ホームページの構築及び掲載。                      ・地域連携リーフレットの作成及び発行。                      ・地域連携情報コーナーの設置。</p>	4	<p>・地域連携に関する活動内容をホームページへの掲載及びリーフレットの作成・発行を継続的に実施し、広く社会に向けた広報活動に取り組む。</p>	

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

委員会名: 世田谷学生委員会 委員長: 金子 忠一

提出日 平成29年 3月23日

<活動方針> 学長方針NEXT125に示されるビジョンの実現に向け、「学生に愛される農大」「卒業生に愛される農大」「地域に貢献する農大」を目指して、キャンパスライフのサービス向上、課外活動の推進、メンタルヘルスケアの支援強化、卒業生や地域とつなぐイベントの推進と活性化のための活動を行う。						
平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ:1. キャンパスライフのサービス向上						
【背景・目標】  快適で安全・安心なキャンパスライフの実現	①学生寮消防訓練の実施(8月) ②インフルエンザ予防接種の実施(希望者のみ) ③学生駐輪場の自転車整理の実施(外部委託) ④学生自転車通学の有料登録制導入(保険加入、自転車通学マナーの徹底) ⑤農大・世田谷区・近隣町会との災害時協定締結に向けての諸調整(7月)	①4 ②4 ③4 ④3 ⑤5	中間報告に加え、⑥常磐松本館・学生会館の防災訓練を実施した(1月)。学生自転車登録は駐輪場の環境整備も進み、随時受け付けをしている。 また、世田谷区地域災害時連携協定の締結は4月を予定し、最終調整を行っており、大規模災害発生時における学生の安全確保を目的とする対応も検討している。 なお、平成27年度から懸案事項である自然災害被害見舞金規程の制定には至らなかったが、引き続き取り組んでいきたいと考えている。	・学生生活の満足度	全体評価 4 ①4 ②4 ③4 ④3 ⑤5 ⑥5	・すべての取り組みを引き続き行う ・世田谷区地域災害時連携協定の締結 ・自然災害被害見舞金規程の制定 ・学生寮の環境整備
テーマ:2. 課外活動の積極的支援による活性化と地域交流の推進						
【背景・目標】  いきいきとしたキャンパスライフの実現	①学生課スタッフによる農友会各部、同好会等の課外活動を日常的な支援 ②収穫祭にあたり、部長・顧問あるいは参与として教職員が積極的に支援 ③地域連携として近隣商店街、近隣町会との懇談会による意見交換(5月、10月) ④近隣町会の防災訓練等の地域イベントに学生、職員の参加協力 ⑤近隣商店街関係者との情報交換の実施 ⑥経堂地区情報連絡会に参加し情報交換の実施	①3 ②4 ③4 ④4 ⑤4 ⑥4	中間報告に⑦「経堂地区情報連絡会への積極的な参加」を加えた。 災害時協定で地域との関わりが強まり、地域での農大に対する理解を深めることに貢献できたと思う。 学生の課外活動の日常的な支援を行い、学生の人間形成、成長に貢献できたと思うが、学生の満足度は十分といえず、課題を残した。	・課外活動(収穫祭、部活動等)への参加者数  ・地域団体等の意識	全体評価 4 ①3 ②4 ③4 ④4 ⑤4 ⑥4 ⑦4	・すべての取り組みを引き続き行う ・キャンパス整備事業(新研究棟建設)と学生活動の調整 ・東京オリンピック開催に向けての世田谷区再整備関連事業との連携 ・農友会部活動の活性化 ・同好会の活動支援 ・地域交流の展開
テーマ:3. メンタルヘルスケアの支援強化						
【背景・目標】  健やかなキャンパスライフの実現	①メンタルヘルス対応講習会(7月) ②学生相談室カウンセラーが学科教員会に出向いて、学生相談等について意見交換。 ③学生相談室での相談状況について定期的な情報共有。 ④学生相談室カウンセラーによる「自分探しのワーク」の実施(6月)。 ⑤車椅子の増設置(キャンパス内計13台)	①4 ②4 ③4 ④3 ⑤2	中間報告に加え、⑥学生相談における「学生課」枠の新設。学生生活に直結した問題解決の対応を行う。⑦ハラスメント対応講習会(12月)開催、センター長と看護師が各学科を訪問し、緊急時の対応法や車いすの使用方法等について講習を行った。 また、昨年に引き続き、教職員向けの講習会の開催等の情報発信を行い、教員と学生相談室の連携強化、相談に柔軟に対応できるよう活動を行った。 新年度に向け、精神科医1名の増員と、新たに臨床心理士を雇用し、複雑化した学生対応をする教職員のサポート体制づくりを行った。	・健康増進センター・学生相談室の利用度合いと内容	全体評価 4 ①4 ②4 ③4 ④3 ⑤3 ⑥4 ⑦4	・すべての取り組みを引き続き行う ・障害者差別解消法施行に関する体制整備 ・臨床心理士を採用し、学生対応問題解決の一助とする

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。

4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。

3 方針に基づいた活動ができた。

2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。

1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

委員会名： 厚木学生委員会

委員長：多田 耕太郎

提出日 平成29年3月17日

<活動方針>昨年度10月に完成した学生交流の場となる学生会館は、後期のみ半期の運用であったことから、さらなる「中味」の充実を図るべく、年度を通した利用計画を立案する。また、学生会館を活用した充実した収穫祭の開催を図る。さらに地域に愛される農大の実現に向けて、地域に貢献できる課外活動の活性化を推進する。これらの方針を実行するためには、学生とのコミュニケーションが重要であることから、情報交換を積極的に行う。

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ：学生会館の「中味」を充実させるための利用計画案の作成						
<p>【背景・目標】 学生会館の「中味」のさらなる充実を図るため、農友会厚木キャンパス総務部、統一本部、全学応援団および同好会などに所属する学生と緊密に連絡をとりながら、利用計画を検討する。</p>	<p>【管理など】規約、利用手続き、管理業務などについて、担当学生と教職員で検討、修正し、運用に移した。 【部室】平成28年10月中に部・同好会などの部室の割り当て、引っ越しが完了した。 【音楽練習室】室数が5室に増え、複数の部・同好会の同時利用が可能となったことから活動の活発化が図られている。 【ラウンジ】学生の憩いの場、昼食場所となるため、昼食時間帯の学内混雑が緩和され、学生の食環境改善に役立っている。また、教育懇談会時のウィンドオーケストラ部の演奏会や写真部の作品展示会に利用するとともに、農友会各部・同好会、学科、研究室などの学内団体の懇談会会場としても活用している(24回)。 【キッチン】各階に設置された計4ヶ所を学生が頻繁に利用しているが、ゴミ処理が不完全であるため指導を実施している。 【宿泊室】早朝に動物行動を観察する学生(1名、1泊2日×7回)および海外協定大学・カセサート大学(19名、2泊3日)、国立中興大学(17名、2泊3日)、中国農業大学(17名、2泊3日)が利用した。</p>	4	<p>【管理など】順調に運用されている。ゴミ処理について、当初は総務部の学生が担当することになっていたが、人数的に対応が困難との意見があり、教職員と協議し、清掃担当者へ依頼することとした。 【部室】全35室中33室を利用しており、新規入室へ2部屋の余裕がある状況。 【音楽練習室】全5室とも連日利用されており、各部・同好会とも十分な活動が確保され、学生の満足度は高い。 【ラウンジ】農友会各部・同好会、学科、研究室などの学内団体の利用合計38回 【キッチン】温かい食事が取れ、食費も節約できるなど、学生に好評。しかし、ゴミ処理の不完全さが解消されておらず、指導の継続を要する。 【宿泊室】厚木キャンパスの学生の他、世田谷キャンパスの学生8名も研究室課外活動で宿泊利用するなど、広く活用されている。</p>	・新学生会館でのイベント、展示会の開催回数、参加人数など。	4	無

テーマ：学生会館を活用した充実した収穫祭の開催						
<p>【背景・目標】 昨年度の収穫祭は、学生会館の完成後、間もなくの開催であったことから、同館の十分な活用が図られなかった面がある。このことから、今年度は昨年度の問題点、反省点を踏まえ、学生会館の機能を活かした収穫祭が開催できるように努める。</p>	<p>【ラウンジ】〔開催前〕各学科体育祭演舞練習の場として利用した（9/30～10/27：各学科6回、計18回）。〔当日〕来学者のスムーズな入出館を考慮したテーブル・座席配置とし、休憩・飲食場所として利用した。これにより、昨年度に比べ来学者は16%増の21,166名であったが、休憩場所の確保を図ることができた。また、創立125周年農大紹介パネルおよび各学科神輿を展示した。 【キッチン】収穫祭実行本部・各学科統一本部の宿泊時などの調理に利用した。厚木キャンパス近隣には飲食店がないことから、夜食の調理などに有効であった。 【宿泊室】収穫祭実行本部・各学科統一本部の休憩・仮眠場所として利用し、学生の体調管理に役立った。（9/23～10/30：78名）。 【その他】地下倉庫に収穫祭用の大型物品が収納されており、エレベーターを利用した搬出入が可能なことから、設営・片付けを安全かつ容易に実施することができた。</p>	5	左記、中間報告期までで達成終了	・収穫祭における入場者数	5	無
テーマ：課外活動を通じた「地域に愛される」農大の実現						
<p>【背景・目標】 厚木キャンパスが開設されてから17年が過ぎ、地域のイベントへの、部、同好会の応援演奏、出張演舞などが定着しつつある。今後も地元との関係をさらに親密にし、依頼には極力対応をするように努めるとともに、こちらからも積極的に提案するなど、開かれた課外活動を推進し、地域に愛される農大の実現に向けて取り組む。</p>	<p>例年の学外活動に新規活動が加わり、活性化がみられる。現時点（4～10月）での実績は以下の通り。 ・YOSAKOIソーラン部：イベント参加 12回 ・ボランティア部：ボランティア活動 11回 ・ウィンドオーケストラ部：演奏活動 6回 ・園芸グリーン栽培部：イベント参加 3回 ・動物研究部：ボランティア活動 2回 ・バスケットボール部：小学生実技指導 1回 ・ファーム同好会：ボランティア活動 4回</p>	4	<p>本年度各部が行った主な学外活動実績は以下の通りで、地域に開かれた課外活動が安定して実施されている。 ・YOSAKOIソーラン部：イベント参加 17回 ・ボランティア部：ボランティア活動 12回 ・ウィンドオーケストラ部：演奏活動 8回 ・園芸グリーン栽培部：イベント参加 9回 ・動物研究部：ボランティア活動 2回 ・バスケットボール部：小学生実技指導 1回 ・ファーム同好会：ボランティア活動 7回 ・演劇部：公演活動 4回 ・軽音楽部：公演活動 2回 ・大道芸同好会：イベント参加 3回 ・和太鼓同好会：イベント参加 7回 ・アニマルボランティアサークル：ボランティア活動 7回</p>	・イベント参加数	5	有

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」（最終報告）

委員会名：オホーツク学生委員会

委員長：吉田 穂積

提出日 平成29年3月22日

<活動方針> オホーツクキャンパス学生委員会は、これまで取り組んできた「学生に愛される農大」の実現に向けた活動を基本に、更に「卒業生に愛される農大」・「地域に愛される農大」を目指し、オホーツクキャンパス独自の学生生活環境を踏まえ、①学生生活における問題発生に対するリスク管理、②学生の人格形成を図るための活動支援を継続して実施することとし、これらをPDCAのサイクルにより改善・充実を図る。						
平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ1：交通事故や自然災害から学生を守る（継続テーマ）						
<b>【背景・目標】</b> オホーツクキャンパスは、その立地条件から学生の自家用車による通学や課外活動での使用を認めている。しかし、車の利用は、利便性向上の反面、交通事故などのリスクも有する。特に免許取得直後の運転技術の未熟な学生が多い上、冬期には暴風雪等の厳しい道路状況下での運転を余儀なくされることもある。これまで実施してきた交通事故防止や冬期の自然災害に対する備えの講習等を継続・充実して実施し、事故等の発生リスクを軽減することを目標とする。	①交通安全指導の継続的な実施計画を踏まえ、今年度も新入生ガイダンスでの指導、外部講師による交通安全講習会（3回）、セーフティラリーを予定どおり実施した。 ②学生の車両登録（未登録）情報を学科に提供し、学生委員会と学科において一体的に指導できるよう一部改善を図った。 ③新入生対象の暴風雪セミナーを12月に実施予定であるとともに、降雪の早期化を踏まえ早期（11月）に実施することを次年度計画に盛り込んだ。	3	①交通安全指導の継続的な実施計画を踏まえ、今年度も新入生ガイダンスでの指導、外部講師による交通安全講習会（3回）、セーフティラリーを予定どおり実施した。 ②学生の車両登録（未登録）情報を学科に提供し、学生委員会と学科において一体的に指導できるよう改善を図り、その結果、当該学生の登録手続きを完了した。 ③新入生対象の暴風雪セミナーを12月に実施し、アンケートで高い評価を得た。また、降雪の早期化を踏まえ11月に実施することを次年度計画に盛り込んだ。  以上の取り組みにより、軽度の事故は数件あったものの、大きな事故は幸い発生しなかった。	①交通安全講習会の実施実績・参加者数、セーフティラリーの参加者数（昨年度より100名増）及び交通事故の発生件数。 ②未登録学生（点検時の未登録者）の登録手続き状況。 ③セミナーの実施実績、アンケートの評価結果（80%以上が勉強になったと評価）。	5	・平成29年度以降への継続テーマとする。 ・学生を事故や災害から守るための不可欠な取り組みであり、継続的なPDCAのサイクルによる実施が必要である。 ・車両登録をしていない学生がいる（点検で確認した以外の）ことから、車両登録の必要性を理解してもらうための取り組みが今後の課題である。
テーマ2：快適な学生生活の環境づくり（継続テーマ）						
<b>【背景・目標】</b> オホーツクキャンパスの特徴として、ほとんどの学生が親元を離れて一人暮らしをしている。不慣れた土地での一人暮らしにより、学生生活に問題を抱え就学に支障をきたす学生が他キャンパスと比較して多いと思われる。また、他者との関係性を構築することが不得意な一方で、ネット上のSNS等に依存し、トラブルに関与したり被害を受ける可能性が高くなってきた。こうした状況を踏まえ、学生生活に関する現状（問題点等）を把握するとともに、必要なレクチャーの実施と注意喚起することを目標とする。	①継続的な取り組みとして、新入生ガイダンス等において、オホーツク地域での一人暮らし、学生生活上の注意点等に係る指導を行った。 ②学生メンタルケアの取り組みとして、メンタルヘルス学習会を開催。冬場の「心の安らぎの場」として、イルミネーションの設置を予定している。 ③学生生活等に係るアンケート（学生が抱える問題点等の把握）については、年度末の実施に向けて今後、具体的な検討を進めたい。	3	①継続的な取り組みとして、新入生ガイダンス等において、オホーツク地域での一人暮らし、学生生活上の注意点等に係る指導を行った。 ②学生メンタルケアの取り組みとして、メンタルヘルス学習会を開催。冬場の「心の安らぎの場」として、イルミネーションを設置し好評を得た。 ③学生生活等に係るアンケート（学生が抱える問題点等の把握）については、年度内の実施には至らなかったが、次年度実施（6月）に向けて具体的な実施計画を策定した。	①ガイダンス等での実施実績、学生の理解度（アンケート等）。 ②学習会の実施実績、参加者数。 ③具体的な実施計画の策定状況。	4	・平成29年度以降への継続テーマとする。 ・メンタルヘルス学習会及びハラスメント学習会への参加率向上を図ることが今後の課題である。 ・今年度に策定した学生生活実態アンケートを平成29年度に実施し、この結果を具体的な施策につなげていきたい。
テーマ3：課外活動の積極的支援及び学生と地域との協働（継続テーマ）						
<b>【背景・目標】</b> 本学は、自己だけでなくキャンパス外の地域と協調し活動することによって、心身の健全な成長や人間力アップに繋がるとの観点から課外活動を推奨している。オホーツクキャンパスでも、農友会などの課外活動を通じ収穫祭等各種イベントへの参加を促し、勉学以外での人格形成の向上に努めてきた。今年度もこの方向性のもと、共通演習を活用した地域連携プログラムや収穫祭における地域の来場者目線での新たな取り組みを検討している。本委員会では、これらの取り組みを積極的に支援し、学生が地域と協働できる機会の拡大を目標とする。	①学生と地域社会との協働・交流により、人間力や社会人基礎力を高めるためのイベントをこれまで以上に実施し、学生委員会がこれを支援した。→ 網走マラソンのボランティア活動（共通演習）、収穫祭とオホーツク農大マルシェ（地域団体等）の同時開催、体育祭への地域住民の参加等。 ②地域主催の各種活動やイベント（教育行事、まつり、除雪ボランティア等）に、学生が主体的に参画する仕組みづくりについて検討を開始した。 ③同好会活動の活性化・円滑化を図るため、継続申請に係る説明会・手続き時期を早期化した。 ④地元不動産業者との意見交換会を開催した。	3	①学生と地域社会との協働・交流により、人間力や社会人基礎力を高めるためのイベントをこれまで以上に実施し、学生委員会がこれを支援した。→ 網走マラソンのボランティア活動（共通演習）、収穫祭とオホーツク農大マルシェ（地域団体等）の同時開催、体育祭への地域住民の参加等。 ②地域主催の各種活動やイベント（教育行事、まつり、除雪ボランティア等）に、学生が主体的に参画する仕組みづくりについて検討を開始し、一部次年度から具体的な活動（学生の消防団員への参加）に着手することとなった。 ③同好会活動の活性化・円滑化を図るため、継続申請に係る説明会・手続き時期を早期化したことで、申請漏れ等が大幅に減少した。 ④地元不動産業者との意見交換会を開催した。	①活動実績、参加者数、アンケートの評価結果。 ②活動実績、参加者数。 ③同好会継続、保険加入手続きの状況（完了・漏れ）。 ④活動実績。	4	・平成29年度以降への継続テーマとする。 ・学生の成長を図るために有効な取り組みであり、継続的に多様な活動にチャレンジさせていきたい。 ・今後の課題として、教職員が主導するのではなく、学生自ら目的意識を持って企画や活動に参画できる仕組みづくりを検討する。

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。

4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。

3 方針に基づいた活動ができた。

2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。

1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

# 平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

委員会名: 広報戦略委員会

委員長: 渡部俊弘(副学長)

提出日 平成29年3月22日

＜活動方針＞ 学長方針 NEXT125、東京農業大学の中期計画N2018に基づく諸施策実現と、組織的・戦略的に教育研究の成果に係る発信力の強化やブランド力を高めることを、広報面から支援する方法を検討するとともに、広報に係る現状(情報配信手法、組織)、問題点を学内、他大学の状況調査により明らかにし、これらを解決できる支援方法を展開する。						
平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ: 配信システムの調整 (東京農大ホームページリニューアル)						
<b>【背景・目標】</b> 10年程前のホームページリニューアル後、変更されておらず、スマートフォン等での閲覧及び多様化しているステークホルダー(受験生、一般、企業等)に対応していない状況であるので、新たな配信方法を含めたりリニューアルに係る提案及び作業を実施する。  <b>【中期計画_平成29年度以降】</b> 研究力、教育力の配信に係る提案及び作業を実施する。	PC、スマートフォン、i-Pad閲覧に対応したホームページを12/22(木)公開予定。 あわせて約6,000ページある内容のスリム化、混在するサーバー統合、更新システム導入等により、人的、金銭的に運用費がかからないシステムを構築予定。また、各学科、課程と連携し、情報配信を行う。 新たな情報配信ツールとして東京農大アプリを開発し、動画、AR(スマートフォンでかざすと動画が配信)、独自の情報をステークホルダー別に配信するシステムを構築し、平成29年3月に公開予定。	4	PC、スマートフォン、i-Pad閲覧に対応したホームページを12/22(木)公開。 あわせて情報のスリム化、混在するサーバー統合、更新システム導入等により、人的、金銭的に運用費がかからないシステムを構築し、現在運用中。	・平成29年度入試志願者数 ・各種メディア掲載 ・各種調査結果	4	・平成30年度改組に係る広報の調整及び一部スマートフォン対応になっていない頁の移行作業 ・オホーツクキャンパスホームページサーバーの統合 ・スマートフォンを利用した新たな広報(アプリ開発)
テーマ: 配信システムの調整 (自己点検システムリニューアル)						
<b>【背景・目標】</b> 自己点検システムは、大学改革推進室が担当所管となっているが、現在のシステムの目的は、教員業績書等の管理、研究力の広報展開が主となり、その性質から教員研究業績システムと呼ぶに相応しいものに変化している。また、各省庁の公開義務等の増加や、教員が入力・出力するシステムの機能不足に対応しきれない状況であるため、目的にあわせ運用担当所管を明確にすると同時に、使い勝手の良い新システム移行に係る提案及び作業を実施する。  <b>【中期計画_平成29年度以降】</b> 研究力、産学連携に係る情報配信に係る提案及び作業を実施する。	自己点検システムの外部公開データは画面、内容を見直し、ホームページリニューアルと同時期の12/22(木)に公開予定。 8/31、9/14、10/5広報戦略委員が教員の入力・出力システム全項目の確認及び情報機能不足や他システム(researchmap等)との連携を検証した。 11/11開催の広報戦略委員会で現行システム(SRA東北)をカスタマイズし、調整後、平成29年3月末運用する方針を決定。 運用担当所管は現在調整中。	3	自己点検システムの外部公開データは画面、内容を見直し、ホームページリニューアルと同時期の12/22(木)に公開。 今年度中に教員の入力・出力システム簡素化、情報機能不足、他システム(researchmap等)との連携の修正を完了。 平成29年度から運用開始。	・利用者(本学教員)のデータ入力状況 ・各種研究助成金 ・各種メディアからの取材依頼	3	・データ入力の促進及びデータ活用方法の検証
テーマ: 配信情報の精査、広報媒体の決定						
<b>【背景・目標】</b> 入試センターは受験生広報を主としており、教員の研究力、教育活動の成果、社会貢献等の配信が行われておらず、配信情報の収集や配信媒体にあわせた加工等、対応していない状況であるので、新たな配信方法を含めた提案及び作業を実施する。  <b>【中期計画_平成29年度以降】</b> ステークホルダー別広報強化の提案及び作業を実施する。	各学科・課程から選出の広報委員で9/29会議を実施。学科・課程ホームページ独自サイトやリーフレット、情報収集システム構築等について問題提起を行い調整中。1~2ヶ月に1回程度の会議で意見集約を図り、企画案等をまとめる予定。 あわせて、ホームページ及び大学案内リニューアルについて作業中。その他、ブランディング広告として、10/11~11/2JR山手線ADトレイン、10/31~11/13東横線TOQ(トレインチャンネル)を実施。	3	広報戦略委員会に各学科・課程から選出の広報委員による委員会を立ち上げ、学科・課程ホームページ独自サイトやリーフレット、情報収集システム構築等について検討し、連携を図った。 ブランディング広告として、10/11~11/2JR山手線ADトレイン、10/31~11/13東横線TOQ(トレインチャンネル)を実施した。あわせて、広報媒体、予算配分を見直した。	・平成29年度入試志願者数 ・各種メディア掲載 ・各種調査結果	4	・平成30年度改組広報及び学科、課程、学部パンフの調整 ・広報基盤整備(シンボル、キャッチコピー、パンフ、学科カラー等の調整)

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5~1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

委員会名:総合研究所 所長:山本 祐司

提出日 平成29年3月7日

<活動方針>  
 5年先を見据えた総合研究所の基本方針を以下のように定め、それぞれの実現に向けた具体的なテーマを年度ごとに設定して、達成のための行動を順次行う。  
 更にその達成度を点検・評価し、次年度のテーマ設定にフィードバックして行く(2年目)  
 (1)「研究で評価される農大」に向けた取組み  
 ① 研究生サポート体制の強化  
 ② 農大らしい研究プロジェクトの企画・推進  
 ③ 総合研究所の本学における研究牽引機能の強化  
 ④ 研究遂行上のリスク管理体制の構築・維持  
 ⑤ 既存施設の有効活用による研究力・発信力の向上・強化  
 (2)「地域に貢献する農大」、「社会・産業に貢献する農大」に向けた取組み  
 ① 本学の研究成果を社会に還元するためのサポート機能の強化  
 ② 総研研究会、実践総合農学会活動の活性化推進と本学の研究力向上への活用

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
<b>テーマ:エコテックゾーンの有効活用による研究戦略の立案 【基本方針の①⑤に対応】</b>						
【背景・目標】 エコテックゾーンエリア全体の方向性を踏まえ、外部資金の導入により新たな研究基盤の構築を目指す	現在、総研としては研究計画の側面から研究戦略会議を通し、エコテックゾーン使用について連携協定企業等を加え協議を進めている。 施設面からエコテックゾーン運営委員会とも連携をとりながら、今後の方向性についてさらに検討を行っている。	2 (活動中)	エコテックゾーンエリアの今後の方向性について、総合研究所研究戦略会議で3回(4/20,6/13,8/29) 総研運営委員会で1回(12/2) 及び世田谷キャンパスエコテックゾーン教育研究施設委員会で1回(12/5) 審議が行われた。各種委員会において、利用法等について様々な意見・提案がされ、対応策として企業との連携、補助金等を視野に入れていくことも検討された。 エコテックゾーン・グリーンハウス及びバイオマスエネルギーセンター設備の撤去費用を平成29年度に予算計上し、新たな敷地の有効利用されることを要望。その結果、平成29年度予算では、グリーンハウスの撤去費用が承認された。今後も各種委員会を通し更なる戦略的・先端的活用を検討していく。	・学長の方針を確認し、再整備案の立案に着手できたか。 ・エコテック施設委員会と連携を取り方向性を検討できたか。 ・現在使用されている研究者との調整が図られたか。 ・外部資金、共同研究、受託研究、寄付金及び企業との連携を視野に入れ再整備案が立案できたか。 ・実施に向け学内的なオーソライズが図れたか。	3	継続有
<b>テーマ:研究戦略委員会の運用 東京農業大学・同短期大学 第2期中期事業計画の研究戦略(重点分野)に対応</b>						
【背景・目標】 今まで機能していなかった研究戦略会議を立ち上げ、本学の研究力向上のための企画、立案、実施を研究戦略会議主導で実践していく。  【中期計画_平成29年度以降】 研究力、産学連携に係る情報配信に係る提案及び作業を実施する。	現在まで3回の研究戦略会議を開催し、様々な課題・運営内容及び研究プロジェクト等について協議検討を行っている。 総研において重要な案件を協議できる大切な委員会(組織)となっており、順調に運営されている。	4 (活動中)	平成28年度より総研部長会を改め「研究戦略会議」と称し、総合研究所規程第7条に基づき運営が行われた。 会議実施状況は7回(4/20,6/13,8/29,10/20,11/28,2/3,13)であり、様々な課題、運営方針、研究プロジェクト審査等について協議・検討が行われ、総研において重要な案件が協議される組織として機能している。	・学長の方針を確認し、再整備案の立案に着手できたか。 ・総研が抱えている課題等について協議・検討ができたか。 ・新しい研究プロジェクトについて立案できたか。 ・研究力・産学連携に係わる情報発信に繋がる提案ができたか。 ・3キャンパス内での情報共有を推進していくことができたか。	5	継続無
<b>テーマ:農大オリジナルseedsの発掘 農大の教員の研究成果や研究対象を把握できるシステムを模索し、総合研究所が主体となって積極的に研究費用の獲得に向けたシステム作りを検討、開発する。 【基本方針の②③に対応】</b>						
【背景・目標】 現在 総合研究所のHPで外部資金の実施状況の一部を掲示している。閲覧アクセスも総研HPの中では低く情報発信としては不十分である。研究シーズを効果的に社会発信していくためのツールを特定し、「環境」「健康」「地域貢献」をキーワードとした大学としての積極的な地域貢献、社会貢献を目指すよう外部発信に力を入れる。	現在、総研が管理しているHP情報と大学HPの研究業績情報を結び付ける新たな発信情報を検討中である。 双方の情報を合理的かつ効果的に外部へ分かりやすく情報発信出来るよう研究戦略会議で協議しながら進める予定。	3 (活動中)	総合研究所ホームページにおいて、科学研究費等外部資金および学内研究プロジェクトの実績を公表(更新)した。 また、大学全体での「研究情報システム(自己点検システム)」更新後も総合研究所ホームページから各教員の研究情報を検索できるよう対応を実施した。 今後、「研究情報システム」にシーズ管理・公表機能を持たせ、研究シーズをわかりやすく情報検索・公開可能となるよう検討を進める。	・学長の方針を確認し、再整備案の立案に着手できたか。 ・学外者に対し研究力・産学連携に係わる情報発信に繋がるツールとなったか。 ・研究コンテンツの充実に向けた検討ができたか。 ・総研HPを活用した情報提供がルーチンワークとして実施できたか。 ・HP年間運用計画(メンテ含む)の立案と実施がされたか。	3	継続有

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5~1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

学部・委員会名 教職学術情報課程  
 学部長・委員長等氏名 課程主任 小梁川 雅  
 担当所管 教職学情報課

提出日 平成29年3月31日

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指 標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ: 高度な専門性と実践的指導力を育む教員養成						
<b>【背景・目標】</b> 高度な専門性を有し、実践的指導力を育む教員養成を行う。学校ボランティア活動や教職実践演習による「学びの集大成」を通じて、教員としての資質・能力を十分に兼ね備えた学生の支援体制を促進する。	世田谷区教育委員会による学校ボランティアや埼玉県教育委員会によるスチューデントサポーターに関する説明会を実施し、ボランティア活動の推進を行っている。また、教職実践演習での「学びの集大成」として、教員採用試験正合格者に対して世田谷区・北区・豊島区・厚木市教育委員会、農業高校と連携し、現地演習の実施に向けて調整を行っている。そして、本年度から教職実践演習での授業の一環として、近隣中学校で授業見学を行い、学校での授業運営に関する学びを深めた。さらに、教員を目指す学生が参加できる企画として、理科・農業分野に生かせる教材研究講習や現職教員との交流ができる夏季若手教員研修会を実施した。	3	4月に、世田谷区教育委員会による学校ボランティアや埼玉県教育委員会によるスチューデントサポーターに関する説明会を実施し、授業や学生指導などを通じてボランティア活動の推進を行った。8月に、教員を目指す学生が参加できる企画として、理科・農業分野に生かせる教材研究講習や現職教員との交流ができる夏季若手教員研修会を実施した。後期必修科目の教職実践演習での「学びの集大成」として、教員採用試験正合格者に対して世田谷区・北区・豊島区・厚木市教育委員会、農業高校と連携し、19名の学生が現地演習に参加し、2月に現地演習報告会を行った。また、本年度から教職実践演習での授業の一環として、近隣中学校で授業見学を行い、学校での授業運営に関する学びを深めた。	・教職課程就職状況 ・教職に関するアンケート	4	・教職課程開講科目内容の改善。 ・各研究室教員による学生指導(進路相談も含む)の充実。 継続有
テーマ: 教員採用試験対策講座の充実						
<b>【背景・目標】</b> 教職課程開講科目以外に、学生が学びを深めたい専門教科、教職教養に関し、教員採用試験対策講座として、外部講師(教育委員会採用担当経験者等)、委託業者講師及び教職課程教員が講義や面接指導を行い、より多くの教員採用試験正合格者が出るよう、学生への支援を行う。	学部4年生以上を対象とした教員採用試験対策講座には、7月末までの講習38回へ合計85名の学生が参加した。8月上旬には、一次試験合格者約40名に対して最終面接指導を実施し、10月末の段階で現役学生20名(科目等履修生2名を含む)が二次試験に合格した。学部3年生を対象とした教員採用試験対策講座には、8月末の段階で90名が登録した。9月17日に開講式を実施し、10月末の段階で6回の講習が終了している。	3	教員採用試験対策講座を受講した最終合格者へのアンケート調査(12名回答、無記名)では、8割の学生が満足と回答した。学部3年生を対象とした採用試験対策講座(90名登録)は、2月末の段階で17回の講習が終了した。	・教職課程就職状況 ・教員採用試験対策講座受講者数及び開催後実施する受講生アンケート(開催内容、回数等、要望)	4	・出欠状況を把握するとともに欠席学生を減少させる。 ・4年次からの参加者を追加し最終合格者を増加させる。 継続有
テーマ: 学芸員養成・司書養成						
<b>【背景・目標】</b> 日本国内の学芸員・司書養成大学の殆どが人文・社会科学系の大学である。本課程は、東京農業大学に設置されている特徴を生かし、数少ない理系の学芸員・司書の教育を目標とする(ディプロマポリシー)。 ① 博物館・図書館基本的な知識の修得 ② 研究活動や情報化社会で必要とされる情報活用能力の養成。 ③ 企画立案等の策定ができる人材の養成 ④ 博物館・図書館とその周辺産業やそれらに従事する卒業生との緊密な連携の推進	前期授業で学芸員・司書関連の基礎科目の修得が完了した。情報活用能力を養成するために、情報検索の演習を現在実施中である。また、関連資格である検索技術者3級の取得に向けて授業を進めている。博物館・図書館の学外実習では、各博物館・図書館で企画策定など、実務レベルの実習を体験させることができた。OB会や非常勤講師との懇談会を開催し、重要な情報交換が実施できた。	3	実習・演習の実施にあたり、個別面接を実施することで、学生の要求に細やかに対応した。派遣先の実習館でも、おおむね実習所見が高く評価されていた。就職については、個々の学生指導、ニュースレター、課程リーフレットの作成と関連機関への配布により、公立の大型博物館をはじめ関連施設等の内定にも繋がった。また、OB会の開催により、就職や関連業界の情報収集ができた。学芸員・司書以外の資格として、検索技術者検定3級(旧情報検索基礎能力試験)試験への挑戦をさせ、3名を合格させることができた。	① 授業評価と派遣先実習館の所見など ② 検索技術者検定3級(旧情報検索基礎能力試験 情報科学技術協会)の合格者数 ③ 自然科学系博物館、植物園、動物園、図書館等に実習学生の派遣数および、ニュースレターの関係機関への配布 ④ OB会の開催	4	履修者数の増加により、個別の指導に多くの時間を費やすため、円滑な授業計画の立案が必要となる。そのために、専任教員、非常勤講師との協力体制の強化をはかる。平成28年度への継続の有無 有り

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

学部・委員会名 図書館  
 学部長・委員長等氏名 館長 北田 紀久雄  
 担当所管 図書館 事務課

提出日 平成29年 3月23日

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ1:ラーニングコモンズ等の充実と利用促進による来館利用者数の増加を図る						
<p>【背景・目標】                      これまでの図書館は、専ら静肅を旨とする閲覧環境を提供してきた。しかし、新図書館では、学習支援機能の充実も視野に入れ、多様化している教育方法及び学習形態に対応できる環境を提供していきたい。そのために、よりアクティブな学習の場であるラーニングコモンズ等の学内認知度を高め有効な利用を積極的に促し、図書館利用者数の増加につなげたい。</p>	<p>図書館内のラーニングコモンズの充実により、利用者及び学科からの要望を踏まえ多彩な学習形態を取入れつつある。特に、6階ラーニングコモンズと4階学習室では談話可能にしたため、以前より使用者が増加している。7階プレゼンテーションルームを授業で使用する教員もあつた。図書館ホームページで館内の利用情報を、リアルタイムに流し状況を利用者に知らせ、周知に努めている。</p>	3	<p>HPより、利用者にラーニングコモンズ(6階・4階)の利用促進をしたところ徐々に利用者が増えた。また、ラーニングコモンズで行っているイベントを利用者に紹介することに努めた。7階プレゼンテーションルームを教員に使用をしていただくよう運営委員会や学科長会等で伝えたとこ、昨年度より利用団体及び利用者数が増えた。</p>	<p>(1) 図書館来館者数                      (2) グループ学習室の施設利用者数                      (3) アクティブ学習室の施設利用頻度と利用者数                      (4) コミュニケーションフロアの施設利用者数                      (5) プレゼンテーションルームの施設利用頻度と利用者数</p>	3	<p>継続有                      各ラーニングコモンズの利用状況を確認すると、昨年以上に利用者を増員できたが、月別を見るとばらつきがある。来年度はコンスタントに利用されるような施策を検討していく。</p>
テーマ2:農学専門分野のコレクションの充実を図る						
<p>【背景・目標】                      近年は、情報の多様化が進み紙媒体の図書や雑誌だけでなく、電子ジャーナル・e-book・オープンアクセス・データベース等の電子的な情報資源が急速に増えつつある。それらの情報資源(電子コンテンツ)を充実し、一元的・持続的な管理を目指していきたい。また、蔵書等についても農学系を中心とした自然科学・社会科学系にわたる専門分野の資料充実は元より、農学系古書や貴重書の収集及び保存にも努めていきたい。</p>	<p>現在、電子ジャーナル・e-book・データベース等の電子は、オープンアクセスより閲覧することができる。しかし、情報元が徐々に増えるつつある。今後は、利用者に閲覧をしてもらうように周知をしたい。農学系古書や貴重書は、各書店から情報収集をして購入をするか検討をしている。また、古書及び貴重書の保存は、計画を立てて実施する予定である。</p>	3	<p>電子コンテンツについては、為替変動の懸念があつたため、新たな購入検討は継続とし、利用者の拡大に力を入れた。説明会開催の他、HP及び館内掲示等の広報活動を強化し、利用促進をしたところ閲覧者が徐々に伸びてきた。蔵書に関しては、従来の「見計らい選書」「店頭選書」に加え、新たに「学生選書」「WEB選書」を実施した。古書についても、寄贈図書の一部を、脱酸処理して登録した。また、貴重書として榎本武揚の書など、掛軸を数本購入して登録した。</p>	<p>(1) 3キャンパス図書館による電子コンテンツ等購入に関する検討会の開催                      (2) 見計らい選書の実施回数と購入冊数                      (3) 店頭選書の実施回数と購入冊数                      (4) WEB選書の実施回数と購入冊数</p>	3	<p>継続有                      電子コンテンツの購入検討については、社会情勢、他大学の状況等も参考にしながら継続的に実施していきたい。利用促進についても説明会等により継続して行っていきたい。古書及び貴重書は、情報収集を積極的に行い、良品の発見に努めたい。</p>
テーマ3:機関リポジトリによる本学の研究業績の社会発信を図る						
<p>【背景・目標】                      本学の教職員、大学院生等が研究及び教育活動において生成された研究成果や教育資源学術コンテンツを一元的に収集・蓄積・保存し、学内外に電子的手段により無償で発信・提供することにより、本学の学術研究の発展に資するとともに、社会に対する貢献を目的とした。平成28年度においては、学位(博士)論文を継続して登録コンテンツの対象とした。また、新しい登録コンテンツの対象として本学の紀要である農学集報掲載論文を取り上げたい。</p>	<p>機関リポジトリでは、教育学術コンテンツとして紀要論文と学位論文を公開している。紀要論文は、本学の教職員・大学院生が研究成果をまとめた農学集報掲載論文のデータを公開している。昨年度まで学位(博士)論文は、論文データの公表のみであったが、本年度より論文内容要旨及び審査結果概要を公表することができた。</p>	4	<p>今年度の紀要論文及び学位(博士)論文は順調に登録され本学の研究業績を社会に発信をすることができた。本学には、機関リポジトリ運用要領が制定されていなかったため各大学の要領や指針を参考に検討し、新たに制定した。</p>	<p>(1) 機関リポジトリによる、学位(博士)論文の公開本数                      (2) 機関リポジトリによる、農学集報掲載論文の公開本数</p>	4	<p>継続有                      平成29年度より機関リポジトリ運用要領を制定により、スムーズに公開を進める。今後は、新たな研究業績の公開を含めて、今まで以上に機関リポジトリを社会に広める準備を進める。</p>

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

## 平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」（最終報告）

学部・委員会名                      学術情報センター（厚木キャンパス）

学部長・委員長等氏名            センター長 河合 義隆

担当所管                              厚木学術情報センター事務室

提出日 平成29年3月31日

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ：図書館機能の充実						
<p><b>【背景・目標】</b> 前年度に引き続き図書館機能を充実することにより、学習・教育・研究活動の支援体制の強化、並びに安定した学内ネットワーク環境の維持を目標とする。</p> <p>1) アクティブラーニングスペースの増設、積極的活用のための運用方法の検討</p> <p>2) 情報検索や論文作成法の講習会などの実施</p> <p>3) 学部学科再編を意識した選書方針の策定と選書方法の改善</p> <p>4) コストを意識した運営のスリム化、見える化の促進</p>	<p>1)については、今年度中に研究棟偶数階への設置に向けて、業者のデモを含めた設置作業を進めている。</p> <p>2)については、各学科・研究室からの情報検索実習の依頼に対応し、実施してきた。</p> <p>3)については、新学科を意識して従来より情報収集範囲を拡大した形での資料収集を心掛けている。</p> <p>4)については、専任職員と業務委託との間で、日常業務の効率的な仕分けと情報連携について試行しながら新たな運営体制について検討を行っている。</p>	3	<p>1)については、研究棟2階、6階に短焦点型プロジェクター（電子ペン対応型）を設置した。なお、壁面へのスクリーン設置はH29年度に実施予定である。</p> <p>2)については、情報編作実習についてはほぼ全ての依頼に対応した。論文作成法の講習会は学科側との調整に手間取り実施できなかった。次年度以降の課題である。</p> <p>3)については、H29年度も引き続き収録範囲などを検討して、H30年度の学科改組に対応できるようにしていく。</p> <p>4)については、H29年度以降も継続して業務の見直しを図る。</p>	<p>1)については、研究棟2階、6階へのプロジェクター設置完了。</p> <p>2)については、実習依頼への対応率80%以上の実績。(依頼5件中4件対応)</p> <p>3)については、従来から使用していた選書ツールの廃刊に伴い、Webツールの導入準備を開始した。H29年4月以降稼働予定。</p> <p>4)については、主にカウンタースタッフを中心とした業務マニュアルの整備。</p>	4	<p>1)については、2階と6階へのスクリーン設置と、奇数階へのプロジェクター設置及び、各階の什器類整備を進める。</p> <p>2)については、新たな検索データベースへの対応と、講習参加等による担当者のスキルアップを図る。</p> <p>3)については、新学科に対応した選書基準の見直しや、新選書ツールの操作習熟などを行う。</p> <p>4)については、引き続きマニュアル整備を実施する。</p> <p>引き続き1～4の各項目についてH29年度も継続して取り組む。</p>
テーマ：ネットワーク環境の維持						
<p><b>【背景・目標】</b> 前年度に引き続き、3キャンパスのネットワーク環境の安定稼働の維持及び各種メンテナンス作業に対する技術支援を実施する。</p> <p>また、平成29年度実施予定のネットワークリプレイスに備え、現行ネットワークの評価と新たなネットワーク環境構築のための情報収集、及び学内関係所管との連絡調整を世田谷のコンピュータセンターと連携を取りながら実施する。</p>	<p>キャンパスのネットワーク環境維持については、世田谷コンピュータセンターと常駐SEとの連携により作業を継続中である。</p> <p>また、本年11月よりネットワーク検討委員会が始動し、現行ネットワーク環境の評価とリプレイスに向けての検討が開始される予定である。</p>	3	<p>ネットワーク検討委員会の活動だけでなく、農学部の改組に対応した新たなWGの活動準備や、全学的なインフラ検討委員会参加者との情報共有を行った。</p>	<p>年4回のネットワーク検討委員会参加、およびコンピュータセンターからの視察受入。それらに加えて、日常的にネットワークインフラ関係の問題に関して、教職員からの意見収集の実施。</p>	3	<p>ネットワーク更新のため、教職員や学生といった利用者サイドからの情報収集だけでなく、システムやサービスを提供する業者サイドとも情報収集を行う体制を整備していく。また、ネットワーク検討委員会とそのWGだけでなく、大学全体のインフラ検討委員会との有機的連携による効果的な整備計画の立案を目指す。</p>
テーマ：蔵書スペースの確保と蔵書の整理の促進						
<p><b>【背景・目標】</b> 前年度に引き続き、大学図書館の機能である「資料の保存」と「資料の利用」のバランスのとれた運用を行うため、適切な資料管理（資料の除籍・廃棄を含む）を実施する。</p>	<p>除籍手続き済みの資料2,000点余りを廃棄し、新たな資料設置スペースを確保した。</p> <p>今後、学部学科改組に伴う返却資料が増加する見込みで、引き続き適切な資料の除籍と廃棄を行って配架スペースの確保に努める。</p>	3	<p>除籍資料の廃棄を行った後、H29年度中に除籍処理を実施するため、指定図書などの消耗品費購入図書を中心に「仕分け」を進めた。日常的に使用する書架から地下の書架へ移動するとともに一覧表の作成準備を行った。</p>	<p>新たな設置スペースの確保と適切な資料管理の実施。図書費支出の図書の一覧表の作成、除籍の起案の作成。</p>	4	<p>引き続き適切な資料管理を行う。消耗品費支出の図書については、H29年度の運営委員会です承を得る予定である。除籍図書についてもH29年度の早い段階で運営委員会を開催して、了承を得て必要な手続きを進める。</p>

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。

4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。

3 方針に基づいた活動ができた。

2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。

1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

学部・委員会名 学術情報センター(オホーツクキャンパス)  
 学部長・委員長等氏名 センター長 丹羽 光一  
 担当所管 学術情報センター

提出日 平成29年3月21日

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ 幅広い教養の習得・学部大学院一貫教育に関する支援						
<b>【背景・目標】</b> 1. 入学制度の多様化により、入学時の基礎学力にばらつきがあることから、入学前教育、入学後のリメディアル教育・語学教育の充実により底上げが求められている。 2. 学力・意欲に優れた学生に対し、よりその能力を伸ばすための支援環境を充実させる	やさしい英語を大量に読むことにより英語力を高めるため、「英語多読授業の取り組み」を実施。第一弾として全132冊を配架。 文献検索ツールの講習会を実施して受講者増。民間企業との連携によりArcGISの講習会を実施。	3	1. やさしい英語を大量に読むことにより英語力を高めるため、英語多読図書専用の書棚や本の整備・拡充を実施。3回にわけて、全606冊を配架した。一定の学生が多読に興味を示した。また、中高英語参考書を整備した。 2. 定期試験に対する学習支援のため、試験準備期間中の平日土曜日開館時間の延長と日曜開館を実施した。 (平日開館時間を18:00を20:00に、土曜日は17:00を18:00に延長、日曜日9:00-17:00開館も実施) 3. 文献検索ツールの講習会の参加を促すことで、受講者数が増加した。 ・SCOPUS, SienceDirect, Mendeley (H27年度 28名 → H28年度 124名) ・SciFinder (H27年度 32名 → H28年度 104名) ・JDreamⅢ / Web of Science (H27年度 247名 → H28年度 244名) 4. 民間企業との連携によりArcGISの講習会を実施した。	1. 学生の基礎英語力向上への寄与 2. 講習会の参加人数 3. 定期試験準備期間の開館日・時間調整実施	4	1. 多読授業のために平易な英語図書をそろえたが、さらに活用するために図書館内での授業をどのように行うか。 2. 文献検索などの講習会について、内容に見合った学年を優先して受講させるための工夫が必要。
テーマ: 学生のライフサービスの向上						
<b>【背景・目標】</b> バスによる通学者が増えている現状において、運行本数は授業時間を考慮した最低限の運行となっている。そのため、授業間の休憩場所、リラックスする空間等が必要。 学生が気軽にコミュニケーションを図る空間、休日のキャンパス利用者並びに来訪者がくつろぐスペースも必要である。 土曜日の授業実施日が多いことから他所管との連携による教員・学生へのサービス充実が求められる。	ラウンジで閲覧できる図書拡充のため、除籍図書をリサイクル図書として利用。 学生教務課との連携により、土曜日の授業サポートを学情センターに移管。 食堂・ラウンジ以外の休憩場所のサービス向上が今後の課題(学部全体としての取り組み)	3	1. 学生の休憩場所の充実のために、除籍図書をリサイクルして、ラウンジに配架した。 2. 土曜日の授業サポートを学情センターに移管し、非常勤講師の講義に図書館職員が対応した。	1. 学生のライフサービス向上のための具体的措置 2. 非常勤講師への授業サポート	3	1. 現在行っている事が学生の学内生活の充実につながっているか、どのように検証するか要検討。 2. ラウンジの充実以外に、図書館としてライフサービス向上に寄与できることはなにか。

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

学部・委員会名 エクステンションセンター  
 学部長・委員長等氏名 センター長 立岩 寿一  
 担当所管 エクステンションセンター

提出日 平成 29年 3月 21日

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
<p>テーマ 1:オープンカレッジの充実</p> <p>【背景・目標】                      「オープンカレッジの充実」                      平成27年度は127講座を開講するまでに成長しているオープンカレッジだが、より「地域に愛される農大」づくりを目指すため、受講生のニーズに応えられているか、新たな展開は考えられないか再検討する。                      具体的には、オープンカレッジ開講方法の見直し、オープンカレッジ開講日程の検証を行う。                      検証結果を基に対策を講じ、平成29年度オープンカレッジ開講講座の企画に反映する。</p>	<p>オープンカレッジ講座の充実として、                      ①過去の受講生アンケート結果を踏まえ、問題点の洗い出し及び対応について取り組んでいる。                      ②教職員を対象としたカレッジ講座に関する意識調査(アンケート)及び来年度前期のカレッジ講座企画募集を10月中旬に実施し、11月中旬の締め切りを受け、集計及び分析結果を12月上旬に学内公表する予定である。                      また、来年度前期の開講講座の決定については、11月末までに企画検討委員会及び連絡協議会を開催し、審議・決定を行う予定である。</p>	4	<p>過去の受講生アンケートの集計・分析結果及び教職員を対象としたカレッジ講座に関する意識調査の結果を踏まえ、検討課題や要望等について取り組んだ。                      その結果、受講生のニーズに応える講座として平成29年度オープンカレッジ講座(前期)に反映させることが出来た。</p>	<p>過去の受講生アンケート結果の課題等及び教職員に対する意識調査結果による要望等への取り組みが、受講生や先生方のニーズに応じた内容として、平成29年度オープンカレッジ講座(前期)企画募集に反映するよう努める。</p>	5	<p>・多種多様なカレッジ講座の運営実施に向けて、運営方法の見直しの提案等を継続的に行い、ニーズに対応した開講科目の検討と実施、受講生に喜ばれる充実した講座を遂行するよう努める。</p>
<p>テーマ 2:グリーンアカデミー受講生確保と授業等の充実</p> <p>【背景・目標】                      毎年、本科(定員80名)・専科(定員150名)・生活健康科(定員60名)の新規受講生を鋭意募集しており、平成28年度本科受講生は前年度に引き続き定員を満たす見込みである。専科受講生は数年定員を満たしていないが、専科受講生は本科受講生が基礎的な知識を修得した1年後に専門的な知識を得るための専科受講生となるため、本科から専科への定着率を高めるための方策等が課題となる。生活健康科は専科と同様、新規受講生と継続の受講生で構成しているため、新規受講生の更なる確保への方策と次年度以降継続者としての定着率の向上が課題である。受講生確保のための方策と授業等教育内容の向上を目指し、授業(カリキュラム)及び実習内容が受講生にとって満足度のいく有意義なものであるか、検討・見直しが求められ、教育環境の充実となる施設設備等の整備と共に受講生へのサービス向上を目指す。                      世田谷区委託事業「土と農の交流園講座」や公開講座の充実では、世田谷区との連携を強化し運営の向上に努める。</p>	<p>安定した受講生の確保として、                      ①受講生が満足いくカリキュラムや講義内容であるか、受講生アンケート等を踏まえ、講師と課題及び改善点等の解決に向けた打ち合わせを実施している。                      ②教育環境に関しても施設設備の利便性や安全性の充実を図るための点検等維持管理に努めている。                      ③広報媒体(新聞・雑誌等)の再検討及び募集に関するリーフレット、ポスター等の配布先拡大に向けた取り組みを行うなど、更なる効果的な広報活動に取り組んでいる。                      ④「土と農の交流園講座」については、受講生からの意見や要望を踏まえ、世田谷区職員との打ち合わせを行い、委託事業の充実・向上に努めている。</p>	4	<p>①受講生アンケート結果を踏まえ、受講生が満足いくカリキュラムや講義内容であるか、講師等関係者と定期的に課題及び改善点等の解決に向けた打ち合わせを実施した。その結果、3月17日現在の平成29年度の受講志願者数は、本科72名、専科152名、生活健康科70名であった。                      ②教育環境面における施設設備の利便性や安全性の充実のため、椅子・机等の点検等維持管理に努めた。また、全教室でインターネットの使用可能な環境を整備することが出来た。                      ③広報媒体(新聞・雑誌等)やリーフレット、ポスター等の再検討及び配布先の拡大など、更なる広報活動に取り組むと共にグリーンアカデミーの活動内容を紹介するブログも200回以上の更新が行われ、受講生や一般の方々からは好評を得ている。                      また、初めての試みとして、「オープンアカデミー」を開催し、草花・野菜等栽培の入門講座や園場見学等を実施し、受講生確保に努めた。                      ④「土と農の交流園講座」の受講生からの意見や要望等のアンケートを踏まえ、世田谷区職員との打ち合わせを行い、委託事業の充実・向上に努めた。                      また、月1度の公開講座については、人気の高い講座をグリーンアカデミーで行うことで、参加人数の増加と共に次年度グリーンアカデミーの受講生確保にも繋げることが出来た。</p>	<p>・本科・専科・生活健康科の受講志願者数。                      ・受講生及び講師へのアンケートによる評価。                      ・世田谷区の委託事業「土と農の交流園講座」の受講生へのアンケートによる評価。</p>	4	<p>・本科、専科及び生活健康科における定員数確保のための方策として、次年度も教育内容及び教育環境等への課題等に取り組む、安定した受講生の確保に努める。                      ・受講生アンケートを継続的に実施し、受講生等関係者の満足度を高める。</p>
<p>テーマ 3:地域連携事業への推進支援</p> <p>【背景・目標】                      平成27年度地域連携戦略委員会で調査した大学の地域連携の実態を把握するためのアンケート調査を実施したが、個々の連携活動における詳細の把握が不十分であるため、教員へのヒアリングを継続的に実施すると共に課題解決のための支援等方策を検討する。                      また、既存の地域連携事業や新規連携事業の受入れ体制など、組織的に地域連携活動を運用するための体制づくりに取り組むと共に地域連携事業の個々の特色並びに全体像の情報共有を行うための情報収集を行い、ホームページや情報誌等により、学内外への情報発信を行う。</p>	<p>①各地域連携活動における活動内容等実態把握が不十分である連携事業については継続的に担当教員等関係者と連絡を取り、情報収集を行っている。                      また、連携締結先の活動内容を対象に課題及び改善点等を抽出し、方策・支援に向けての対策等に取り組んでいる。                      ②新規連携先との活動を行うための条件や戦略的な方策・支援等をワーキンググループで検討等、取り組んでいる。                      ③各地域連携事業の推進・支援を行うための運用マニュアルを作成し、支援体制の確立に向けて取り組んでいる。                      ④地域連携に関するホームページ及びリーフレットの企画・立案等の検討を行い、作成及び発信に向けて、取り組んでいる。                      また、学内外への情報発信として、各地域連携活動に関する資料やパンフレット等の情報収集と整理を行い、紹介コーナーの設置に向けて、取り組んでいる。</p>	4	<p>①既存の地域連携先の活動内容に関する課題等の情報収集は概ね把握出来た。                      また、改善点等への方策・支援等は継続的に検討を行った。                      ②新規連携先との活動条件として、本学との活動経緯や今後の交流の可能性等を事前協議を行い、「地域連携に関する概要書」等を作成など、基本条件を定めた。                      ③地域連携活動に伴う、本学の支援体制として運用マニュアルを作成した。                      ④地域連携活動に関するホームページ構築及びリーフレットを作成し、都道府県の地域創生関連部署や既存の連携先に送付を行い、広報活動に努めた。</p>	<p>・平成28年度地域連携協定先一覧の作成。                      ・地域連携協定締結に伴う「概要書」等基本条件の設定。                      ・地域連携運用マニュアルの作成。                      ・地域連携ホームページの構築及び掲載。                      ・地域連携リーフレットの作成及び発行。                      ・地域連携情報コーナーの設置。</p>	4	<p>・活動内容等の実態把握は教員等関係者から、協力を得ることが出来たが、一部不十分な回答や未回答が生じているため、継続的に検討し、取り組んで行く。                      ・連携活動に伴う課題等への方策・支援に関しては継続的に委員会等で検討し、解決に向けて取り組み連携先を増加する。                      ・各地域連携事業の推進・支援等に伴う支援体制の一環として、運用マニュアルを作成したが、3キャンパスの関係者等で調整が必要なため、実施に向けて継続的に検討し、取り組んで行く。                      ・地域連携に関する活動内容をホームページへの掲載及びリーフレットの作成・発行を継続的に実施し、広く社会に向けた広報活動に取り組んで行く。</p>

【評価凡例】別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

学部・委員会名 コンピュータセンター  
 学部長・委員長等氏名 センター長 高橋 新平  
 担当所管 コンピュータセンター事務局

提出日 平成29年 3月15日

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ1:【教育支援】情報基礎(一)、情報基礎(二)の授業支援						
<b>【背景・目標】</b> 目標:円滑な授業運営のための支援を行う  <b>評価目標:</b> ①計画通り実施できたか ②問題点・改善点を把握し、対処できたか	・非常勤講師との連絡票(月に一度回収)により日常的な問題点を把握する。 ・非常勤講師との意見交換会(7月実施済、12月開催予定)により授業の様子、問題点、テキスト、シラバス等に対する意見、改善点をチェックするとともに欠席の多い学生などの把握もする。	3	・非常勤講師との意見交換会により、授業の様子、問題点を把握することができた。クラス分けについての意見が出され、コンピュータセンター教育部門会議にて検討した。 ・TAアルバイトは概ね配置通り勤務でき、担当教員との信頼関係が築け授業運営も円滑に行った。非常勤講師からの評価も高かった。	・非常勤講師との連絡票(月に一度回収)により日常的な問題点を把握する。 ・非常勤講師との意見交換会(7月実施済、12月開催予定)により授業の様子、問題点、テキスト、シラバス等に対する意見、改善点をチェックするとともに欠席の多い学生などの把握もする。	4	・TA配当枠(予算)が、実際のクラスよりも少ないため、すべてのクラスにTAを配置することができないため、TA配当クラスと配当できないクラスで授業に差がでている。 MOS資格を有する学生を中心に授業補助アルバイトを採用しているが、やはり大学院生と学部生では指導等に差がつき、教員の負担も増える。均等に配当できるように十分なTA配当枠を確保するか、授業補助アルバイト予算で大学院生を採用できると理想的である。 ・平成29年度からは更にクラス数が増えること、また全学必修科目なのに専任教員が少ないことも運営上負担になっている。
テーマ2:【教育支援・就活支援】Microsoft Office Specialist対策講座及び認定試験の実施						
<b>【背景・目標】</b> ①パソコン利用技術の向上 ②就活に役立つ認定資格の取得	・夏休み期間実施(8月9月)の講座・試験では、説明会を含め昨年より減少。受講者の満足度は高いものの申込者が減少傾向にあるため対策が必要 ・予定通り春休み期間(2月、3月)も実施する	3	学生への講座周知方法を改善したことで、昨年度に比べ、説明会及び受講希望者を増やすことができた。 予定通りの講座を開催し、合格率・学生満足度共に高い水準となった。	①説明会でアンケート収集 ②講座でアンケート実施 ③実施結果の確認と報告を行う	4	今年度は受講希望者が増えたものの、数年前に比べるとまだ低い水準にある。 スマートフォンを主に使う学生達には、いかに学生生活・就職後に役立つかをアピールする必要がある。
テーマ3:【教育支援、研究支援、キャンパスライフ支援】ネットワーク環境の基盤整備と運用およびセキュリティ管理						
<b>【背景・目標】</b> 基本方針に基づくネットワーク環境整備 ①教育効果の向上に資する基盤 ②研究活動を支える基盤 ③キャンパスライフに役立つ基盤 ④大学運営を支える基盤	・ネットワーク・サーバ等システムの運用状況監視、システム利用統計、サーバの脆弱性対策やSPAMメールやウイルス対策等のセキュリティ対策等を実施している。 ・利用者へのセキュリティアラートの発信や、情報教育の計画を進めている。	3	ネットワーク・サーバ等システム運用状況監視、システム利用統計、セキュリティ対策の実施、情報セキュリティポリシーの人的セキュリティ制定に伴い本年度から教職員のための情報倫理教育の実施もおこなっている。	大きなトラブルが無く運用、状況監視、セキュリティ対策がで利用者に対してセキュリティアラート発信、教職員に対して情報倫理教育ができています。	4	来年度も引続き実施する。

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。
- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。
- 3 方針に基づいた活動ができた。
- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。
- 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。

平成28年度 全学審議会設置委員会「活動計画書」(最終報告)

学部・委員会名 東京農業大学「食と農」の博物館  
 学部長・委員長等氏名 博物館長 江口 文陽  
 担当所管 博物館事務室

提出日 平成29年3月31日

平成28年度のテーマ・活動目標 (平成28年5月当初計画)	中間報告 (平成28年10月末)	進捗 評価	最終報告 (平成29年3月末)	達成度を判断する指標	評価	課題及び改善事項 平成29年度への継続有無
テーマ1: 農大の「今までを」「今を」「これからを」発信する						
<p>【背景・目標】                      引続き「食と農」の博物館は「東京農業大学」の教育研究の成果を世界に発信することを使命とする。一昨年度に続き昨年度も国立台湾大学の博物館から招請があり副館長がシンポジウムに出席した。各学科1名の教員(助教以上)で構成されている博物館運営委員に積極的に加わってもらうことで高度な活動を維持・展開する一つの例として行った応用生物科学部5学科合同展が成功し、今年度は農学部3学科合同展を実施する。学内だけではなく食と農を結節点にして学外の研究諸団体と連携した展示「女わざと自然とのかかわり」―農を支えた東北の布たち―も大成功を収めた。またNPO法人農業情報研究所と連携した体験講座など、様々な可能性を提示して来た平成27年度であったが、平成28年度も基本的にこの姿勢を続けていくことが博物館の更なる発展に寄与するものと考え。</p>	<p>◆特別展示『東京農業大学創立125周年記念 ピーター・メンツェル&amp;フェイス・ダルージオ 地球の記録20年の写真展「しあわせのものさし」―持続可能な地球環境をもとめて―』2016.6.1(水)～2016.9.25(日)／終了・入場者数39,203人                      ◆企画展示『森林総合科学科創設70周年記念展示「日本の森林」―人と森林との関わり―』2016.3.30(水)～2016.5.25(水)／終了・入場者数31,629人                      ◆企画展示『大日本農会附属私立東京高等農学校初代校長 田中芳男 没後100周年記念企画展「田中芳男と東京農業大学」―博物学から近代農学へ―』2016.10.12(水)～2017.3.12(日)／実施中                      ◆企画展示農学部合同展『「農学2.0」―農のところで社会をデザインする―』／学部展シリーズ2弾目／実施中◆NPO法人農業情報総合研究所主催・「食と農」の博物館協力『お米や野菜など「食」に関する体験教室や講座』1) 米麴甘酒講座1回、2) 世田谷で採れる野菜講座2回、3) しょう油の講座1回、4) お米の講座(小学生対象)3回、5) スパークリング日本酒講座1回◆東京農業大学創立125周年記念特別企画・港区赤坂の三会堂ビル1階ロビーに「食と農」の博物館展示コーナーを開設／博物館所蔵資料「古農具」の展示、現在「踏み車」1点(協力・農林水産奨励会及び大日本農会)◆その他、馬事公苑ガイドウォーク・夏休み子ども体験教室(昆虫標本作り)・世田谷ふるさと区民まつりへの協力・博物館の収穫祭・食材の寺小屋への協力 等、例年通りの催事・イベントも多数開催。</p>	4	<p>① 特別展・東京農業大学創立125周年記念 ピーター・メンツェル&amp;フェイス・ダルージオ 地球の記録20年の写真展「しあわせのものさし」―持続可能な地球環境をもとめて― 2016.6.1(水)～2016.9.25(日)【終了・期間入場者数39,203人】、企画展・森林総合科学科創設70周年記念「日本の森林」―人と森林との関わり― 2016.3.30(水)～2016.5.25(水)【終了・期間入場者数31,629人】、企画展・大日本農会附属私立東京高等農学校初代校長 田中芳男 没後100周年記念企画展「田中芳男と東京農業大学」―博物学から近代農学へ― 及び 企画展・「農学2.0」―農のところで社会をデザインする― 2016.10.12(水)～2017.3.12(日)【終了・期間入場者数47,914人】                      ② NPO法人農業情報総合研究所と「食と農」の博物館の共催による各種体験教室や講座／「米麴甘酒」講座1回、「世田谷で採れる野菜」講座2回、「しょう油」講座1回、小学生対象「お米の講座」3回、「スパークリング日本酒」講座1回、「おはぎ作り体験」講座1回【1回当たりの受講者数 約17人(総数 約160人÷全9回)】                      ③ 東京農業大学創立125周年記念特別企画・港区赤坂の三会堂ビル1階ロビーに「食と農」の博物館展示コーナーを開設／博物館所蔵資料「古農具」の展示、現在「踏み車」1点(協力・農林水産奨励会及び大日本農会)                      ④ 馬事公苑ガイドウォーク／4回実施(4月・6月・10月)、夏休み子ども体験教室「昆虫標本作り」／1回(8月)、冬休み子ども体験教室「お箸作り」／1回(12月)、世田谷ふるさと区民まつりへの協力(8月第一週の土日)、博物館の収穫祭(世田谷キャンパスの収穫祭と同時開催)、食材の寺小屋への協力／年間全22回実施、木祖村の観光と物産展1回(11月)、木曾町の観光と物産展1回(12月)、その他                      ⑤ 学芸員実習生受入れ／農学科3名、畜産学科4名、バイオセラピー学科4名、バイオサイエンス学科8名、栄養科学科1名、森林総合科学科7名、生産環境工学科3名、国際農業開発学科2名【計32名】                      ⑥ 職場体験学習の受入れ／世田谷区立船橋希望中学2名、同区立千歳中学2名、用賀中学2名【計6名】                      ⑦ 高校、中学校等修学旅行・校外学習等の受入れ【計7校】や入試センター経由での高校団体見学の受入れ【計37校】                      ⑧ 他大学等教育機関・専門機関の授業や視察の受入れ【計9団体】                      ⑨ 一般団体見学の受入れ【計50団体】                      ⑩ 所蔵資料の貸出・レファレンス【計12件】                      ⑪ 年間(4月1日～2月28日)入場者数 121,427人／平成27年度同期入館者数 119,764人、平成26年度同期入館者数 113,026人</p>	<p>⑪の年間入館者数を見るならば、2月28日までの比較では今年度は「増加」に転じている。入場者数の確保はどこかの大学附属の博物館でも苦労していることを考えれば、年間10万人を超える入場者がある当博物館は異例中の異例であろう。記録に残らない部分では、例えば北海道や九州から「食と農」の博物館を見学するためにワザワザ来られた方もいた。⑨他大学の授業(駒澤大学博物館学コース、帝京科学大学3年必修科目アニマルサイエンス実習)にも利用され、また名古屋大学農業国際教育協力研究センターによるJAICA研修にも利用された。⑩所蔵資料の問い合わせや貸出等も増えてきた。社会的に注目を集められる企画展示等で認知度が更に高まってきたことで、達成度に関する自己評価は高くとも良いのではないかと思う。</p>	5	<p>基本的に、平成28年度のテーマと活動目標をそのまま継続する。</p>

《評価凡例》別添の「評価基準」又は、「達成度を判断する指標」に照らし、評価を「5～1」で記載してください。  
 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度が高い。  
 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。  
 3 方針に基づいた活動ができた。  
 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い。  
 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分。